

# REPORT

# 修学旅行

## 高等学校

九州 2003.11/10mon  
~ 15sat

### 短い準備期間ながら 実り多かった 修学旅行

今年度の高2の修学旅行先は、阿蘇・柳川・熊本・平戸・長崎でした。昨年度は初の中国旅行を決行しましたが、昨年春にSARSが流行、中国への可能性をぎりぎりまで追求しましたが、6月末に九州に変更しました。

そのため準備期間が限られ、徳高校の基本方針である(1)ホテルは連泊、(2)旅行先長崎での班別の自主研修時間を確保する、などの基本方針を変更せざるを得ませんでした。長崎市内でのホテルも、西海橋近辺のホテルを利用した関係で、長崎市内の自主研修時間を大幅に削減することになりました。

しかし長崎では、爆心地公園で「慰霊祭」を実施することができ、また、現代国語では、「沈黙」を教材として扱うことができました。旅行は天候により、行程の変更がありました。B班 1:2:3:7:

10組)は天候に恵まれ、ロプウェイを使って、阿蘇・中岳の火口口の見学がかない、噴き上がる煙を間近で見ることができました。

A班は天候の回復を待って、とにかく草千里までバスを進めましたが、濃霧にさえぎられて眺望は臨めませんでした。その代わり、阿蘇ではよく知られている「猿回し劇団」の猿芸を見学しました。

柳川の川下りは風情ある船遊びでした。旧柳川城の周囲に張り巡らされた濠跡を巡り、そこかしこに建立されている北原白秋の句碑を読みつ、船は進みました。このように観光客が川遊びを楽しめるようになったのは、柳川市役所に勤務していた故松伝氏が、地道に濠の浄化に取り組んだおかげだということです。

平戸では、班ごとに史跡を散策しました。磯の香りが漂うこじんまりとした町並みで、オランダ堀、六角井戸、蘇鉄の巨木などを眺め、教会と寺が同居するように並ぶ坂道を歩き、400年前の和蘭貿易が華やかだった往事の街の喧噪を想像することができました。

急遽確保したホテルでしたが、いずれのホテルも生徒には好評であったと思います。特に4日目の西海橋ヨソソホテルは、ハワイの



慰霊祭(長崎爆心地公園)



晩秋の川下り(柳川)



来年に願いを込めて(太宰府にて)

リゾートホテルを思わせる雰囲気、バスからホテルを眺めた生徒から大きな歓声が上がりました。

九州はやはり朝鮮半島に近く、ホテルや観光地で案内表示にハングルを多く見かけたほか、ホテルや太宰府でも韓国人ツアーの人たちと出会いました。

来年度は本来のコースである中国修学旅行を予定しています。すでに1年生は、「中国レポート」を作成する準備に入っています。

## 中学校

沖縄 2003.10/27mon  
~ 29wed

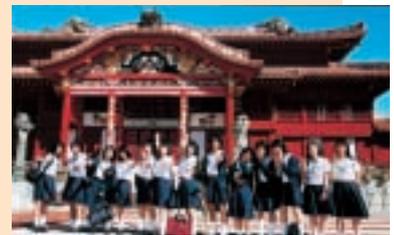
### 成果を得た 平和学習と体験学習

今年度は前年度より2週間ほど早く、中学独自の日程で実施しました。

1日目は南部戦跡の学習で、まず、ひめゆりの塔と資料館見学。資料館では証言者の説明もあって、生徒たちは熱心に見学していました。平和祈念公園の資料館は休館でしたが、平和の礎や各県の慰霊碑の見学では、バスガイドさんの説明に熱心に聞き入っていました。その後、糸数壕で平和ネットワークの人の案内と壕の説明があり、またここでの真昼暗闇の体験は生徒に強く感じさせるものがありました。

宿舎では、「ひめゆりの塔」の証言者島袋淑子さんの講演。講演途中から涙ぐむ生徒も多く、島袋さんにお礼の意味を込めて、「さとうきび畑」を歌うことは、涙する生徒は四半分に及び、本当によい講演であったという感想がしきりでした。

2日目は沖縄の文化・自然の学習。午前中は、亜熱帯の植物が美しく配置された東南植物楽園、続いて沖縄各地から集められた古民家のある琉球村を巡りました。午後からは恩納村商工会での体験学習で、生徒たちはそれぞれ



首里城



体験学習(陶芸)

糸数壕

に分かれて、沖縄の文化伝統に触れることができました。ここでは講師の先生方から、本当に熱心でよい生徒たちだとの評価をいただきました。生徒も、体験学習はよかったですと口を揃えて高く評価していました。

3日目は美しい海と城址と首里の見学。生徒の多くがビーチで靴を脱ぎ、海に足を浸して騒いだあと、座喜味城址で写真を撮り、首里の街を散策し、最後は首里城を見学しました。

沖縄研修旅行は、総合学習で学習してから行ったのでよかったです。特に1日目の南部戦跡や体験学習に対する評価が高く、研修旅行の主たる目的である平和学習と、沖縄の文化伝統の体験学習はその目標をほぼ達成できたと思います。



## 第28回 淑楓祭

2003.11/2sun・3mon

野外ステージ



長久手キャンパス正門  
ライブステージ



「淑市」



模擬店



フリーマーケット



後夜祭



Mr.Queenコンテスト



### 約7000人の来場で、盛大に開催

28回目を数えた淑楓祭は、長久手キャンパス4792人、星が丘キャンパス2181人の来場者があり、盛大な催しになりました。星が丘への入場者は毎年着実に増加してきています。オープンキャンパスの同時開催による相乗効果も考えられます。淑楓祭は、情報を積極的に発信して、一人でも多くの皆さんに来場していただくことで、愛知淑徳大学の「今」を知っていただけ、大変良い機会になりました。

長久手  
キャンパス

体育館ではスペシャルゲストライブに「PEN」が登場すると、熱狂的なファンも含め800人以上の観客が押し寄せ、床も揺れんばかりのウェーブが繰り返されていました。ECホール前メインステージでは、本学各クラブによる活動成果の披露のほか、淑楓ジャンボ宝くじ、Mr.Queenコンテストなどが開催され、淑徳の男子学生が華麗に変身するさまを楽しみました。

門からまっすぐ入ったキャンパス中央通りには「淑市」と名付けられたフリーマーケットの店がところ狭しと並び、多くの買い物客でにぎわっていました。

昨年引き続き、環境保護団体「V.I.V.R.E.(ビブル)」が模擬店で使用されるプラスチック瓶を回収して再度使用するD.R.P.(ディッシュリターン・プロジェクト)というシステムを利用、「ゴミの減量に努めました。MY着運動も実施し、クラブ・学会など9団体で、箸を持参したお客さまに大盛or割引券を出すなど、「ゴミの

星が丘  
キャンパス

星が丘キャンパスでは、テーマ(まご)のイメージである、「人と人のつながり」「温かさ」「優しさ」などを強調する企画が実施されました。野外ステージでの大道芸人ボビーによる毒舌パフォーマンスのほか、アマチュアバンド演奏や各クラブの企画などが催され大盛況でした。また、同ステージで行われた、「オウライブ」では、漫談の田上よしえとアンタッチャブルのコントが、多くの観客の笑いを誘っていました。

ブラザ友輪館を利用した、「星の市」と名づけられたフリーマーケットは、掘り出し物があったり、遊べる模擬店もあつたりのおもしろ企画でした。各教室では、ゼミ・学生会クラブの企画が催され、夕暮祭、後夜祭での工夫を凝らしたゲームを始め、後夜ダンスなど、文化創造学部生らしい独創的な発想が随所に見られる大学祭となりました。今年度の大学祭は、2日目が終日雨となつて、予想外の対応に追われることになりました。積極

減量 森林保護に努め、環境問題に対する意識の強さをアピールしました。

雨となつた後夜祭ですが、大学祭実行委員が舞台でオリジナルダンスを踊りだすと、参加者も一緒にダンスがはじまり、最高の盛り上がりとなりました。大学祭の縁の下の力持ちである実行委員は、この光景に感無量だつたに違いありません。

祭りの締めくくりとして、体育館通路はファイヤーロード、1号棟の2、3階の体育館側の窓に施されたステンドグラスからやさしくもれる明りでお帰りの方々をお見送りし、長久手キャンパスの祭典は幕を閉じました。

的に大学祭を楽しもうと何度も打ち合わせを重ねて臨んだ本番でしたが、そのときにならないと分からないこともあることをつくづく知らされた、との反省も聞かれました。

大学祭成功の陰には、体力の限界まで奮闘した大学祭実行委員始め、参加団体一人ひとりの努力があつたことを忘れてはなりません。今後の目標である、愛知淑徳の学生に楽しんでもらえる大学祭の実現に向けて、学生の皆さんの一層のご理解、ご協力を心より望みます。